

自在にレイアウトできる移動観覧席で 快適な「観戦・観覧環境」を構築している体育館

かすみがうら市立下稲吉中学校（茨城県かすみがうら市）

本事例のキーワード

地域と連携

体育館

家具



課題

部活動の試合の観戦・観覧席を確保したい。
折り畳み椅子も活用したが、見つらい等の意見があり、より良い観戦・観覧環境としたい。

取組/解決策

体育館に、少人数の操作により短時間で設営ができるユニット型移動観覧席を設け、子供たちの試合観戦等を身近で快適なものにしている。

概要

必要なときに設営できる移動観覧席

茨城県かすみがうら市は、ハンドボールが盛んな地域。下稲吉中学校の体育館は、ハンドボールの試合や学校行事を行うにあたって手狭であったため、大きな体育館が要望されていた。2024年1月に、災害時の避難所としても機能できる、待望の新体育館が完成した。

新しい体育館は、体育の授業や部活動の場としての機能だけでなく、試合を観戦できる設備が整っている。このようなフレキシブルな空間利用のために導入されたのが、客席を自由に展開・設置できるユニット型移動観覧席だ。

この屋内用のユニット型移動観覧席により、観戦・観覧をより気軽に実施できるようになっている。普段は専用の倉庫に格納されており、必要な時に2台のハンドパレッターで倉庫からコートサイドに移動させ、専用ハンドルを使って展開する。専門のスタッフは不要で、少人数の操作により短時間で設営ができる。

4台の移動観覧席を所定の位置に移動させて設置すると、合計168席の階段状の観客席が完成する。収納庫の扉は木のルーバーになっており、木が基調の空間に違和感なく溶け込んでいる。



事例のポイント

子供たちの試合観戦をもっと身近で快適に

新しい体育館は、体育の授業だけでなく、部活動の活動場所としても利用されている。それぞれの部の練習試合や公式試合の開催も想定されるため、関係者の観戦・観覧環境も整える必要があった。

従来の学校体育館では、立ち見か簡易な折り畳み椅子での観戦・観覧が多かった。しかし、観客が多い場合は、前の人の頭で視界が遮られ、試合の様子が見にくいなどの問題点があった。

本ユニット型移動観覧席は、席が階段状になっているため、前の人を気にせず観覧を楽しむことができる。座席はベンチ形状になっており、横に荷物を置いたり、小さい子供と一緒に座るのにも適しているほか、練習試合などでは、控え選手のベンチとしても活躍している。

現在、公立学校施設は学校教育に留まらず、地域との連携の場としての役割が求められている。休日・夜間の学校開放や災害時の避難所としての利用など、公共施設としての体育館の役割は多岐に渡る。

新しい体育館が、学校と地域とつなぐ場所になるよう期待が寄せられている。



左) 観覧・観戦をより気軽に実施。
右) 座席はベンチ形状。



左) 少人数の操作で簡単に設営することができる。
右) 使用しない時は倉庫に収納し空間を有効利用。





学校概要

学校名：かすみがうら市立下稲吉中学校

所在地：茨城県かすみがうら市

学校規模：554人（2023年4月時点）

移動観覧席：4台（168席）